猿新聞

編集・発行
山村　準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

獣害対策指南員に同行して

正月明けの1月6日。早朝、福西・屏賀、両指南員に同行して「サル」パトロールの状況を、取材させて戴きました。

畠山さん＝団・モミジ同行。

先ずはB群。

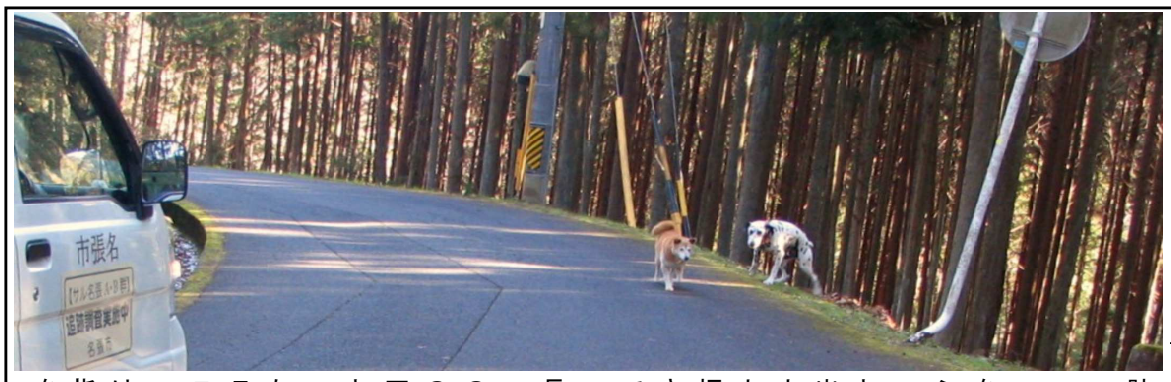
先日、情報のあった上三谷に直行。

上三谷から伊賀竜口にさしかかると、かなり強い受信音があり、車を止め指南員に聞くと「この程度では、群れまでは相当の距離があり、今までのパターンでは長坂方面へ移動中」。

とのことで、先回りをして長坂の集落で待つことにし、1時間ほど待機していましたが現れず、再度上三谷に戻る。

里山のトンボ池付近で強受信がありイヌを放し様子を伺いましたが、イヌの反応も無く群の位置は確認できませんでした。

9時30分、当日の追跡調査終了。



当日の情報「コメント」

『上三谷、赤目の里山を守る会の広場～楽らふ周辺にかけて強受信。モンキードッグ団十郎とモミジ（畠山さん）出動するも姿見えず。山中を移動中の模様。上三谷、伊賀竜口、長坂地区は注意してください』。このようになっています。

明7日は、三本松・長瀬に出ています。

指南員の経験、サルの移動パターンから次の異動先を、もう少し正確にわかればいいなと思います。

同行して、先ず感じたことは、ハンドアンテナを使用していないこと。

自動車装着アンテナは広範囲を受信するが、指向性が悪く群の位置を見極めるには、ハンドアンテナが適していると思います。

現在の装置では、詳細な位置の確認は非常に難しいと思いますが、先ず自動車装着アンテナで広範囲を探り、位置の確認にはハンドアンテナと、使い分けるのが「コツ」かと思います。

指向性の良い八木アンテナを試してみては如何でしょうか？。

指南員のパトロールには、危険が「いっぱい」。

本当にご苦労様です。

凍てついた山道、崩れ易い畦道など自動車の装備や走行には十分留意され、安全運転を心掛けていただきたいと思います。

安全を機するため、出動は必ず二人一組で行うようお願いしておきます。

写真＝サルを追う団・モミジ

多頭数追い払い訓練に同行

1月22日（日）多頭数追い払い訓練に同行させて頂きました。

9時三本松の道の駅に集合。

次郎長（逵）クロス（大西）のみの参加でしたが、昨日の情報から予想し西谷を目指しました。

案の定、西谷付近にさしかかると強電波受信。

西谷旧小学校裏で2頭での追い払い訓練開始。

次郎長は、深野の山育ちで山は慣れているが、クロスは桔梗が丘の町育ちで山は慣れておらず、初めての追い払い。

2頭の呼び戻しに少し懸念をしていましたが、案の定それが的中。呼んでも1時間余り帰らず一同慌てさせられました。

今後、呼び戻しの実地訓練などが望まれるところです。

飼い主の「私の犬は大丈夫」という過信が事故につながりかねません。

対外的には、該当地域や猟友会とは事前に打ち合わせを行い、了解を得ておくことも大事なことだと思います。

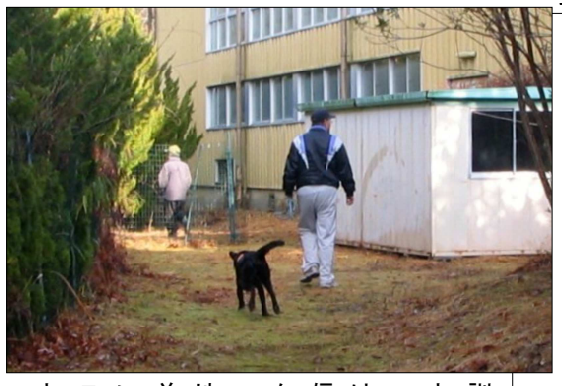
早急に改善が必要と思ったとは、目印の「バンダナ」です。

クロスが帰って来た時「バンダナ」はズタズタに切れていました。

現在の様式では、山中に放つと下草や木の枝などに絡み、呼ばれても帰れない事態が起こるかも。

また、犬が怪我をする恐れがあります。

早急に改善をお願いします。



多頭数での追い払い

10年程前に比べ、野生動物と私たち人間を取り囲む環境は大きく変化しています。

その対策も既存の柵に少し手を加えることから始まり、「手を変え品を変え」、昨今では最新の電気柵を設置している地域もあります。

だが、獣害対策は人間の知恵だけで、なんとかなるような甘いものではなく、全国的に成功している地域は皆無というのが現状だと思います。

最近では大町市を皮切りに全国的に飼い犬を訓練した野生動物追払い犬（MD）の導入が広まっています。

名張市もを導入して3年を迎えますが、1頭のモンキードッグが守れる範囲には限界があります。

今までの追払い手法では、モンキードッグがいる地域から、他の地域に移動させるだけの「イタチゴッコ」状態で大きな効果が上がっていないのが実情です。

それを踏まえ、MDCでは複数のMDが連携した広域的な追いはらい方法を模索しております。

昨年末からサルいがる山の中で実地訓練を行っています。

写真＝大西氏（クロス）左・逵氏（次郎長）写真上＝追い払い開始。（旧西谷小学校裏）

矢川環境保全会　研修会

矢川環境保全会は、松阪市多気町波多瀬地区に於いて活躍されている『元丈の里　夢工房』さんに出向き「地域資源の有効活用」をテーマに研修会を開催致しました。

当日1月29日、多気町着10時いうハードな行程でしたが、中山間地域の私どもとは相容れるところがあり、共感のもてる有意義な研修会でありました。

第一に、放棄地の活用と共同作業による集落機能の向上を掲げられており、今後農村共同力をどのように活かしていくか、そのしくみずくりを模索しています。

『元丈の里　夢工房』

地域資源の有効活用

「元丈の里　ゆめ工房」の活動の現状概要を二、三ご紹介します。

先ず活動拠点は、廃園になった公営保育園で、構成員57名をもって組織し、6次産業の商品化、施設の多目的活用を図っています。

営農組合では、新しいスタッフを迎え入れ加工部門「ゆめ工房」が稼働。米粉販売方法のリニューアルに取り組んでいます。

小麦粉の代替品として米粉利用を呼びかけ、生産に力を入れています。

栄養価にも配慮し胚芽や表皮は出来るだけ残して米粉にしています。

（写真＝ピザ焼き窯）

米粉の特長は。**しっとり・さくさく・もっちり・とろーり**だそうです。

今回の研修プログラムには米粉を使ったピザ作りもあり、参加したご婦人方は張り切って受講され参加者全員がおいしく頂きました。

（写真＝挨拶される代表・上と組合長・下）

「元丈の里　営農組合」組合員40をもって組織し、遊休農地対策に取り組みその一環として、放棄地の再利用をすすめ、企業などと連携してユズ、黒ニンニクなどの栽培を始めています。

今回の講習会が、同組合始まって以来初めてと言うことで、代表以下組合あげて歓迎して下さったことを申し添えて終わりとします。

近隣の農業法人、大学・公共施設と連携を図り、第6次産業にも力を入れています。

これからの農業は、6次産業ぬきでは成り立たないと思います。

野呂（のろげんじょう）元丈

元禄6年（1694）宝暦11年（1761）江戸時代中期の本草学者。

日本における蘭学の先駆者とされる。

野呂　元丈の功績を讃え、出身地の三重県多気郡多気町波多瀬に「元丈の館」という記念館が設置されている。

◎耳慣れない言葉

6次産業とは？

農業や水産業などの第一次産業が食品加工流通販売にも業務展開している経営形態を言う。

編集後記

最近、シカの被害が出ています。

冬枯れで、雑草が少なくなり冬野菜を狙って出てきます。

矢川では、白菜が全滅した畑があります。

シカはほとんど除助走せずに1.5m以上の障害物を跳び越えるが、防護柵など障害物では上を跳び越えるよりも，隙間や下をくぐり抜けることの方が多い。

シカの防護柵は、高さも大事ですが、下部の隙間をなくすことが重要です。

「シカ」とご用心を。